

民生常任委員会所管事務調査報告書

西宮市議会議長 山田 ますと 様

令和5年12月25日
(2023年)

民生常任委員会

委員長	一色 風子
副委員長	牧 みゆき
委員	ありめ こうへい
〃	河崎 はじめ
〃	佐野 ひろみ
〃	浜口 ひとし
〃	松山 かつのり
〃	八木 米太郎
随 行	赤尾 圭介

民生常任委員会管外視察について、次のとおり報告いたします。

■ 調査先及び調査事項

伊丹市

・伊丹市立図書館ことば蔵について

■ 調査期間

令和5年10月31日(火)

■ 調査先対応者

伊丹市

市議会副議長

竹村和人

議会事務局 主任

松原雄大

伊丹市立図書館ことば蔵 館長

中田正仁

伊丹市立図書館ことば蔵

図書館事業グループ 主査

矢野真路

伊丹市立図書館ことば蔵

交流事業・貸室グループ

竹本歩美

■ 用務経過等

午後1時50分、伊丹市立図書館ことば蔵に到着し、竹村副議長より歓迎のあいさつをいただく。

その後、調査事項について説明を受け、館内を現地視察後、事前を送付した質問項目に対する回答をいただき、質疑、意見交換を行った。

(午後3時30分頃視察終了)

■ 視察風景（伊丹市）



■ 視察概要

（施設概要）

敷地面積 3687.69 m² 延べ床面積 6194.44 m² 規模地上 4 階地下 1 階
平成 24 年 7 月 1 日開館

伊丹市図書館本館「ことば蔵」は「公園のような図書館」をコンセプトに図書館機能だけでなく、新たに交流機能、伊丹の歴史・文化の情報発信機能を兼ね備えた施設として平成 24 年 7 月 1 日に移転開館しました。館内には伊丹市にゆかりのある作家として名誉館長を務められた芥川賞受賞作家の故田辺聖子氏、同じく芥川賞受賞作家の宮本輝氏の著作を紹介する伊丹作家コーナーや市内高校生と連携して運営する YA コーナーなどの特設棚や展示ギャラリー、各種イベントなどで利用できる多目的室などを設置している。

図書館システムにおいては、IC タグを活用した蔵書管理、自動貸出機・自動返却機・自動書庫を導入し利便性の向上と利用者の求める資料を迅速かつ確実に提供するとともに、図書館のホームページにて図書館案内、交流事業・図書事業・蔵書検索・予約・期限延長・利用情報の確認等のインターネットサービスを実施しています。市内の図書館は本館を中心にして南分館、北分館、神津分館、西分室、の計 5 つの図書館施設がある。その内、南分館の管理運営は指定管理者である公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団、北分館の管理運営には指定管理者である特定非営利活動法人きらめき、神津分館については指定管理者である非営利活動法人わくわくステーション神津が図書館業務を実施している。

■ 委員からの意見感想

- ・自動書庫がほかにはないところ。費用面と維持のランニングコストは合っていないなという意見もあった。ただ、場所など広さにもよるがそのような設備も必要なのではないかと感じた。
- ・子供たちがいるフロアとほかの一般利用者が利用するフロアが重なっていたので、うるさく感じるのではないかと？しっかり分かれているほうがいいのではないかと感じた。
- ・図書館という機能というよりも、地域とつなぐ図書館という活用がされている場所だと感じた。
- ・ことば蔵という言葉通りのコンセプトを非常に強く感じた。
- ・人口規模は、西宮市よりもコンパクトなまちではあったが参考にすべき点が多くあった。
- ・自動書庫は維持運営費の部分に課題はあるにせよ、導入されたのが 10 年前ということだったので、この 10 年間であいつの形のもものが進化もしていると思われるので、自動書庫という一つの考え方に関心がある。でき得る限りコンパクトに機能性を非常に高めていくということのポイントとしていわゆるどれだけの書庫をコンパクトにしかもたくさんの本が収められるのか。あるいは実際にオープンスペースの中で並べていく本がどの程度で済むのかというポイントで参考になった。
- ・一番いい取組と感じたのは替え本制度。本を借りて交換する、要はそこに自分がこの本でこういったことがよかったなどの感想を手書きで書き本に置いておき、違った本を取るという交換、物々交換ではないが書評を各個人の意見を見て本を読みたくなるなというのを非常に感じた。
- ・指定管理者がその複合施設の中のメイン施設を指定管理しているような専門的なものになっており各館違いがある。西宮の図書館でも既存のものも含めて、複合的なものにして、統廃合をするべきと感じた。
- ・あれだけの規模の自治体で、自動のオートマチックな施設の導入に多額の財源をつぎ込んでいる。その成果はどのようなものかは知りたい。図書館の位置づけというものもしっかり我々自体も市民の方も、認識しなければならないと感じた。
- ・市役所以外で市民が最も利用する公共施設でそういう市民の人が利用する図書館というのは、一体地域でどのような役割を果たすべきなのかと考えたときに、図書館

に行って本を読んで考える、それで自分が考えたことを地域の中で共有できるということがやっぱり地域の中で、知のインフラをつくっていくことにつながると思った。

- 一番良いと感じたのは市民企画イベントがあるということ。市民が集まってやりたいと思うことを行政が仲介しイベントをつくっていく。ビブリオバトル、子供作戦会議、吃音講座など年間 200 回やっているというのがすばらしいと感じた。
- 実際に本を借りられる数が、一人 30 冊で 3 週間も借りられるというところが、1 日 10 冊ぐらい絵本を読む子もいる中で 30 冊借りることができれば読みすすむことに繋がり、子供の実態に合っていると感じた。
- 自習室に W i - F i が入っており現在の勉強はスマホやアイパッドですることが多いので進めてほしいと思った。
- 地域との密着がすばらしいと思った。交流フロアの市民企画講座、会議を行政がフォローしているようだった。市民と行政一緒になって一つのものをつくっているという、つながりが広がってるところは見習うべきと感じた。
- YA コーナー、ヤングアダルトコーナーの子供たちのリクエストを聞いて本を入れているというようなところは、西宮市でも取組を進めていってほしい

■まとめ

近隣市であり、西宮市よりも自治体の規模が小さいという中で図書館運営を先駆的に進めている伊丹市の取り組みは各委員それぞれに影響を受けたように感じる。

自動化された図書館業務の実態と共に地域に根差した図書館として市民と近いところで運営されている様子は今後の西宮市での図書館づくりに大変参考になるものであった。